

議会基本条例の 制定に向けて

市民から議会はどのように見えているのでしょうか？

議会では生活に関わるさまざまなことが話し合われていますが、市民からは見えにくい面があります。そこで市民に開かれた議会をめざして、議会改革調査特別委員会ではさまざまな検討を行ってきています。議会報告会の開催、議員間の自由討議、市民意見の反映などについて10人の議員で活発に議論が進められています。

現在、議会基本条例の制定に向けて調査や研修を行いながら重点ポイントを確認した上で、具体的な素案づくりを行っています。

今後は、条例制定についても広く意見を聴く場を設け、市民が参加できる議会をつくっていきます。

第4回市民と議会の意見交換会

12月22日(土)14時より

健康センターにて開催

内容 議会基本条例素案について



「ひと」と提案」から「予算提案」へ

今年もひとこと提案募集にたくさんの方の提案をいただきました。それらの中から、学校の通学路や歩道、グラウンドの設備、用水路のごみについて現地を確認しました。提案を整理して、2013年度予算提案としてまとめ、小平市に提出しました。「歩道や広場など人々がほつとできるようにベンチのあるまちづくり」「清潔で入りやすい学校トイレ」「市民参加

をわかりやすく広報する」などが新たな要望項目です。

今後は市へのヒアリングも予定しています。また、提案をもとに、議会への質問にもつなげていきます。

市民ひとりひとりの意見でもまとまれば大きな提案になります。今後もひとこと提案の募集を続けていきます。ご意見をお寄せ下さい。

施設なき授産で障がい者雇用を実現 ～大阪、エル・チャレンジの取り組みを視察

障がいがあるから働けないという偏見やあきらめに挑戦し、独自のやり方で雇用を拓けている団体があります。社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会、社会福祉法人大阪市知的障害者育成会、財団法人精神障害者社会復帰促進協会、(株)ナイス、(株)グットウイルさかいの5者が組合員という日本初の事業協同組合、大阪市知的障害者雇用促進建物サービス事業共同組合(通称エル・チャレンジ)です。

多くの場合作業所などの授産施設が知的障がい者の社会参加の場となっています。エル・チャレンジは障がい者の働く可能性を広げるため、公共施設の清掃業務を自治体から受託し、これを雇用ではなく障がい者の就労訓練の場として活用。障がい者はここでスタッフから作業の訓練や面接の指導、仕事の定着までサポートを受けながら清掃業務の就労体験を積み、一般企業への就職を目指します。エル・チャレンジは、この「施設なき授産」で福祉と就労の中間的な障がい者雇用をすすめてきました。この12年での障がい者の就職先は、12社、人数は約500人で、就職後の定着率は8割以上とのこと。驚きの数字です。

東京都でも都庁の一部を東京ビルメンテナンス協会に委託し、障がい者雇用をすすめるためのモデル事業を実施しています。



小平でも、エル・チャレンジの実践を参考に障がい者が自立をめざし、行政・企業・支援機関の連携をすすめていくよう提案していきます。

◀どんな職場に行っても通用するよう細かいマニュアルで訓練している。

■編集後記
木枯らしが吹く頃となりました。子どもも悪くなる子どもネットの生活者ネットワークの子ども政策を改めて確認。日々成長する子どもにおとなはちゃんと向き合っているのか。子ども特集をお届けします。

